

「ひまわり」

宮井
悠

舞台上には真っ白のキャンバスが一つ。

そのほか、椅子や机は雑多な印象。

床には画材が転がっている。

立ち尽くす、白いワンピース姿の少女。

そこへ、かなえが入ってくる

手にはバケツに筆程度の画材を持っている。

かなえ え？

少女 うわあ。

かなえ …誰、ですか？

少女 あの、えっと、私は、

かなえ、キャンバスが白紙になっていることに気づく。

かなえ あれ？ 絵が消えてる…。

少女 私、です。

かなえ え？

少女 私があなたの絵です。

かなえ え？

少女 はい。

かなえ え？ 待って、絵？ ええ？ 絵？ え？

少女 あ、はい。

間。

かなえ ええええええええええ

少女 ええええええええええ

かなえ どういうこと？

少女 外に出てしまいました。

かなえ え？ 本当にあなたが、キャンバスから出てきたっていう

の？

少女 はい。

かなえ いやいやいやいや、

少女 気づいたら、あなたに毎日見つめられていたんです。

かなえ この中から私を？

少女 はい。

かなえ 見つめてた？

少女 はい。

かなえ いつから？

少女 …気づいたら。

かなえ 私があなたを見つめてるとき、あなたも私を？

少女 見つめていた。
かなえ ありえない。

かなえ、困惑したまま少女を見つめる。

かなえ わかんない。わかんないけど、でも、そうなの？ 私が描
いてたのは、あなたなの？

少女 きつと。

かなえ あなたを、

少女 はい。

かなえ 描いてた…

少女 私は誰なんですか？

かなえ 誰って…

少女 私は誰なんでしょう。

かなえ わからないわよ。

少女 あなたの知っている人？

かなえ 知らない。私は、誰かを描いていたわけじゃないから。

少女 誰でもない。

かなえ そう、私だけの中にいたあなたを、描いていたの。

少女 私は、いつからあなたの中に？

かなえ 気づいたら。

少女 気づいたら…

かなえ いたの。確かに。私の描いていた絵は、服も髪も、そのま

んま、あなただった。…本当だ。

少女、不思議そうに自分を見る。

かなえ あ、ちょっと待ってて！

少女 ？

かなえ あれが似合うかもしれない！

かなえ、バタバタと退場。

黄色いワンピースを持って出てくる。

かなえ 着てみてほしいの。

少女 これを？

かなえ あなたなら似合うんじゃないかな。なんだか可愛くて買っ

ちゃったんだけど。

少女 着ないの？

かなえ 着れないわよ。

少女 どうして？

かなえ ワンピースなんて、かわいい女の子しか着ちゃいけないん
だから。とりあえず、着てみてよ。

少女、ふんわりとしたワンピースを着てみる。

かなえ やっぱり。似合ってる。

少女 かわいい。

かなえ 良かった。やっぱりこのワンピース、可愛いよね。

少女 うん、凄く。

かなえ、少し離れて嬉しそうに少女を見る。

かなえ いや、でも…

少女 でも？

かなえ 思ったより身長、あるね。

少女 え？

かなえ なんか、髪も、ロングのほうが似合うかも。本当はもっと

濃い色味のつもりだったし。今の色じゃ、少し、安っぽい。

少女 え。

かなえ 髪質も、良くないもん。目も、肌も、もっと、やっぱり。

まだまだダメだ。

少女 ダメ？

かなえ 私の中であなたは、もっと、素敵だった。もっと、素敵に

してあげたかった。

少女 …。

かなえ どうして出てきちゃったの？

少女 どうして…

かなえ まだ、描けたのに。

少女 でも、私は気づいたらここにいて、生んだのはあなたで、

かなえ 私は、生んでない。生むつもりなんてなかった。

少女 え…

かなえ まだ、生めないよ。

少女 私が、こんなだから？

かなえ あ、いや、違うの。ごめん、

ピンポーン。

チャイムの音。

かなえ あ、平沢。

かなえ、平沢を迎えに退場。

少女、キャンバスに触れてみる。

かなえ、紙袋を持った平沢と戻ってくる。

平沢 いや、急に降ってきたよ。

かなえ タオルいる？

平沢 いい、いい。ありがとう。

かなえ 結構濡れてるじゃん、持ってくるよ。

かなえ、タオルを取りに退場。

平沢、紙袋を机に置く、少女と目が合う。

平沢 あら、こんにちはー。

少女 こんにちは。

平沢 えーっと？

少女 あ、あの、えーっと…

平沢 かなえのお友達？

少女 たぶん。みたいなものです。

平沢 へー。あ、私はかなえと高校からの友達で、平沢です。だ

いぶん、お若い、ですよ？

少女 たぶん、ですかね？

平沢 あはは。私はもう29だから、それに比べたら若いで

しょ。

少女 たぶん。

平沢 あれ？ 気を使ってくれてるの？ 私もまだまだ若いと思

ってるから大丈夫だよ。かなえも絵が描きたいと言っていて、あんな

な感じだし。

少女 あんな感じ？

平沢 スーパーのレジ、バイトでしょ？

少女 そうなんだ。

平沢 あれ？ 知らなかった？

かなえ、タオルを持って戻ってくる。

かなえ どうぞ。

平沢 あ、ありがとう。ああ、お友達？ 来てたんだね。

かなえ え、ああ。

平沢 そうだ、名前聞いてなかったね。(少女に)なんていう

の？

少女 あの、えっと…

かなえ ひ、ひまわりちゃん！ だよ？

少女 あ、えと、ひまわりです。

平沢 あはは、可愛い。

かなえ ですよ。

平沢 ねえ、ひまわりちゃんの髪は地毛なの？

少女 え、あ、これ、

少女、恥ずかしそうに髪を押さえる。

平沢 いい色してるね。

少女 えっ。

かなえ 安っぽくない？

平沢 ええ!! そんなことないでしょ。

かなえ そう？

平沢 瞳も淡い色してるし、羨ましいよ。

少女 え？

平沢 色素薄いのに憧れてた時期あったな〜って。

かなえ そういえば昔、髪の色抜いてたよね。ヤンキーみたいにな
ってた。

平沢 ええー。それは心外。

かなえ 平沢は今のがいいよ。

平沢 私もそう思う。そのまんまが一番似合うんだろうね、結
局。

少女 そのまんま？

平沢 ひまわりちゃんは似合ってるよ。

少女 今が、私の、そのまんま？

平沢 そうじゃないの？

かなえ、机の上の紙袋を覗く。

かなえ あー！ 生食パン！

平沢 あ、そうそう、かなえ好きでしょ？

かなえ 好き！

平沢 だったと思って。今日シフト入ってないのに、雨の中走っ
て来たんだから。

かなえ えー、申し訳ない。

平沢 あはは。全然いいけどね！ ひまわりちゃんは、うちの食

パン、食べたことある？

少女 ない、です。

平沢 めっちゃめっちゃおいしいから。

かなえ 切るもの持ってくるね。

平沢 あ、いや、焼きたてだから切ると潰れちゃうんだ。

かなえ そっか。

平沢 手でちぎって食べようよ。

かなえ じゃあ、とりあえず真つ二つにしている？

平沢 いいよ。

かなえ いきまーす。

かなえ、食パンを割く。

少女、深く息を吸い込んで、

少女 いい匂い。

平沢 ね、おいしそう。

かなえ、半分を平沢に渡す。

平沢 えっ、半分くれるの!?

かなえ もちろん。

平沢 そんなには、いらないよ。

かなえ いいじゃん。大きいの持ってた方がおいしい気がしない？

平沢 そうか？

少女 私、持ちたい。

平沢 え？ 持ちたいの？

少女 うん。

少女、かなえが半分にした食パンを貰う。

かなえ はい。

少女 あっ重い。

平沢 でしょ、おいしいパンは重いんだよ。

かなえ、食パンをちぎりながら食べている。

かなえ やっぱ美味しい。

平沢 はや！

かなえ 食べてる時が一番幸せかも。

平沢 わかる。私にも。

平沢、かなえの食パンを一口貰う。

少女、食パンを持ったまま動かない。

平沢 ひまわりちゃんもどうぞ？

少女 あ、はい。

少女、食パンを食べてみる。

かなえ おいしいでしょ。

少女 …。

かなえ どうかした？

平沢 焼きたて、おいしいでしょ。

少女 …。

かなえ どうしたの？

少女 おいしい。

かなえ ね。

平沢 やっぱり、おいしいって言ってもらうの嬉しいわ。

かなえ おいしい！

平沢 あはは、ありがとう。

少女 …おいしい。おいしいの。ふんわり解ける口の中も、鼻から抜ける甘さと香ばしさも、きめ細かくて真っ白くて手にしっとり乗ってる見た目も、何もかも、全部、全部、おいしい。

少女、思い立ったように紙袋や椅子、キャンバスをかじってみる。

平沢 え？

かなえ ちよつと、

少女 このパンが、一番おいしい。

かなえ 当たり前じゃん!? 何やってるの!?

少女 すごい。(平沢に向かって) おいしいものが作れるんです

ね。

平沢 へ？

かなえ やめてよ、変なこと言わないで。

少女 変ですか？

平沢 ちよつとびっくりした、かな。

少女 そう、ですか。

平沢 食パン、食べたことないの？

少女、頷く。

平沢 おいしいよね。

少女、頷く。

かなえ ねえ、平沢。私、頭おかしくなったと思わないでね。

平沢 何？

かなえ 実はこの子、私の絵なんだ。

平沢 へ？

かなえ 私が描いてた絵なの。なぜか突然、キャンバスから出てき
ちゃって…。

平沢 出てくるって？

かなえ さっきまでは、いつもみたいにそこで絵を描いてて、キャンバスに確かに描いてたの。

平沢 うん。

かなえ 突然、突然なの。その絵が消えちゃった。そしたらこの子がいて…ごめん、やっぱり変だよね。

平沢 変、かも。

かなえ どうしよう。でもこれが現実だと思ってる。ありえないってわかってるのに、信じてるの。

少女 私のこと、ありえないの？

かなえ ありえないよ。ねえ、私の描いてた絵は？ どこにあるの？

あなたは？ 誰なの？

少女 私…

平沢 ひまわりちゃん、じゃないの？

かなえと平沢、少女を見る。

少女 え？

少女、うつむきパンを見つめる。

かなえ なんで黙るのよ。名前ぐらい言ってみよ。

少女 ひまわり…

かなえ だからそれは、

少女 だって、ひまわりって…

かなえ ふざけてるの？ 冗談？ 笑えないんだけど。

少女 パン：

かなえ 何？

少女 このパン、いい匂いがしない。

かなえ は？

少女 さっきまで、あんなに幸せだったのに。

沈黙。

平沢、少女が持つパンを受け取り、袋に戻す。

平沢 大丈夫、またおいしくなるから。

少女 どうやって？

平沢 おいしいものは、変わらないからだよ。ねえ、かなえ。私

は、ひまわりちゃん好きだな。

かなえ 好き？

平沢 おいしいものを、おいしいうって食べてほしいもん。嫌いな

人に、そんな風には思わない。

かなえ そんなこと、

平沢 私は、パンを作りたい人だから。かなえは、絵を描きたい

人。

かなえ ？

平沢 ひまわりちゃんは？

少女 私？

かなえ 絵に描かれた人。

平沢 本当にそうなの？

少女 ……

平沢 私には、絵には見えない。

かなえ 私がおかしいって言ってるの？

平沢 違うよ。かなえが、紹介してくれたからだよ。

かなえ え？

平沢 友達だって。

かなえ でも…

平沢 だめ？ わかんないけどさ、もうひまわりちゃんは、ここ

にいるじゃん。それでよくない？

かなえ え？

少女 ここにいる…

平沢 でしょ？

少女 私は、パンを食べた。平沢とかなえと、話した。

少女、体を触る。

少女 私、生きてる。

かなえ なんです。じゃあ、私が描いていたはずのあなたは、なんだ

ったの。

少女 ただ嬉しかった。手が、髪が、描かれていくのが。

かなえ それで？ いいじゃない。もっと、良くしてあげられる。

もっと時間をくれれば、

少女 不安になったの。

平沢 不安？

少女 そう、不安になったの。この真っ白い四角の中で。

かなえ なんでそんなこと…

少女 わからない。私、生きてみたくなってしまうみたい。

暗転。

おわり